科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar Ⅰ						
科目担当者	岡 夏樹　　OKA Natsuki						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	輪講とプロジェクトを並行して実施する。 ● 輪講：AI・データサイエンス分野に必要な基礎的知識や技能を身につける。題材の候補は、Python や機械学習のチュートリアルなど。 ● プロジェクト：輪講で身につけたことを生かして、フィールドワークによる問題発見から解決策の考案、プロトタイピング、評価まで。SNS マーケティング等も可能。オープンキャンパスでのデモや、対話システムコンテストなどへの参加を目指す。						
授業の到達目標	① AI・データサイエンス分野に必要な基礎的知識や技能を身につけ、生成 AI が使いこなせるようになる。具体的な目標は学生ごとに異なるが、たとえば、既存の AI プログラムに対して、自分がやりたいことを実現する上で必要な追加修正が、簡単なものならある程度できるようになる。 ② プロジェクト実施に役立つデザイン思考を身につける。 ③ プロジェクトを楽しみ、自分が成長するとともに、周りの人の成長を助けられる。						

授業計画・内容

1	輪講(Python, 機械学習チュートリアル) 1	16	輪講(既存の AI プログラムを動かす) 1
2	↓　フィールドワーク	17	↓　活動を SNS で発信
3	輪講 2　↓	18	輪講 2　↓
4	↓　課題を発見	19	↓　効果を分析
5	輪講 3　↓	20	輪講 3　↓
6	↓　解決策を考案	21	↓　必要な勉強
7	輪講 4　↓	22	輪講 4　↓
8	↓　プロトタイピング	23	↓　活動を SNS で発信
9	輪講 5　↓	24	輪講 5　↓
10	↓　評価	25	↓　効果を分析
11	輪講 6　↓	26	輪講 6　↓
12	↓　必要なステップに戻る	27	↓　必用な勉強
13	輪講 7　↓	28	輪講 7　↓
14	↓　振り返り	29	↓　活動を SNS で発信
15	輪講 8	30	輪講 8

授業外学修 (事前学修)	● 輪講テーマの予習（毎週 1 時間程度） ● 授業時間外のプロジェクト活動（毎週 2 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	● 輪講テーマの復習（毎週 1 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
● 輪講での発表・質問・討論・クラスへの貢献	５０％	①
● プロジェクトへの貢献・自分の成長・他の人の成長を支援	５０％	②③

成績評価基準

秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合

教科書

参考文献

- 教養としてのデータサイエンス 改訂第 2 版, 北川源四郎／竹村彰通 編, 講談社
- The Batch: Weekly AI news, https://read.deeplearning.ai/the-batch/
- 発想する会社!：世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法, トム・ケリー他, 早川書房

その他

どんな学生の受講が望ましいか：ゼミを自分たちで作ろうという意欲。みんなでワイワイやるのが好き。AI・データサイエンスに興味がある。教員と対等に議論したり学生どうし切磋琢磨できるようになりたい。よりよい社会にするため考え、行動したい。産経大の AI・データサイエンス盛り上げ隊の隊員になりたい。教員の興味関心（ことばから感性まで幅広く人の心のしくみを解き明かしたい）と重なりがある。生成 AI を使いこなしたい。